

## 共通商品券セッション

# 地域通貨としての 機能と活用

### パネリスト

渡部 茂夫 氏（協同組合新潟市商店連合会理事長）

小山 桂一 氏（輪島市商店連盟協同組合理事長）

藤井 一浩 氏（協同組合神辺わかば会副理事長）

### コーディネーター

小渡 章好 氏（はちのへ共通商品券協同組合理事）

## 協同組合 新潟市商店連合会

〒950-0088 新潟市中央区万代6丁目2-37  
 TEL.025-248-4820 FAX.025-248-4838 Email : nsr4822@gif10ken.com  
 【URL】http://gif10ken.com/



わたべ しげお  
**渡部 茂夫** 氏（協同組合新潟市商店連合会 理事長）

### ■プロフィール

- 昭和14年 新潟市生まれ
- 37年 明治大学 商学部 卒業
- 58年 有限会社 きくや 代表取締役就任
- 平成 元年 協同組合新潟市商店連合会 副理事長就任
- 7年 協同組合新潟市商店連合会 代表理事(理事長)就任
- 8年 「(有)きくや」から「株式会社 きくや」に組織変更
- 12年 (協)新潟市商店連合会にポイントカード事業を新設  
商店街共通ポイントカードとしてチューリップカードをスタート
- 13年 新潟市商店街連盟 理事長就任
- 15年 新潟商工会議所 副会頭就任
- 19年 新潟商工会議所 副会頭退任  
新潟市商店街連盟 相談役就任
- 20年 チューリップカードをリニューアルしたキメキカードをスタート。
- 23年 創立25周年 クレジット包括加盟事業スタート
- 24年 とよさかシール会とポイント事業提携。  
新潟商工会議所中央会館閉館に伴い、事務所を移転。
- 現在 株式会社 きくや 代表取締役  
協同組合新潟市商店連合会 理事長

### ■ 団体概要

#### 《所在地》

〒950-0088 新潟市中央区万代6丁目2-37  
 TEL.025-248-4820 FAX.025-248-4838 Email : nsr4822@gif10ken.com  
 【URL】http://gif10ken.com/



#### 《組合沿革》

- 昭和 61年 8月 事業協同組合として創立。商店街で使える500円券の発券を始めた。
- 平成 3年 6月 1,000円券と10,000円券の発券をスタート
- 8年 渡部理事長就任、商品券の大型店での取り扱いを開始。
- 12年 チューリップカード(烏山方式商店街ポイントカード)スタート
- 17年 商品券にバーコードを導入し商品券管理システム(オリジナルソフト)による管理を開始
- 18年 新潟市の広域合併により加盟店の範囲拡大(人口81万人の政令指定都市新潟市の誕生)
- 19年 新潟市政令指定都市記念プレミアム商品券5億円発券 (実行委員会の事務局を担当)  
第9回共通商品券全国大会in新潟 開催主管者



- 20年 ポイントカードシステムリニューアル  
富士通機器の老朽化により日本カード(はん子はん蔵)に全数入れかえ120台  
年間商品券発券額6億円突破(627,805千円)
- 21年 グリーン家電エコポイント交換商品券に参加  
年間商品券発券額 907,106千円
- 22年 2月 トキメキ通信(組合内通信)発行開始(隔月発行)  
4月 住宅エコポイント交換商品券に参加  
6月 クレジット包括加盟事業の研究を開始  
12月トキメキ通信(フリーペーパー)発行(組合内通信から消費者向けに変更)  
年間商品券発券額 1,278,261千円
- 23年 組合創立25周年。  
6月 「愛の商品券」発行 新潟市社会福祉協議会から震災避難者へのお見舞として市民や各種団体からの寄付全額を約1,000万円分の商品券に換えて贈呈。  
8月 クレジット包括加盟事業 開始  
11月 創立25周年記念祝賀会を開催。
- 24年 とよさかシール会とポイント事業を提携、トキメキカードのエリア拡大。
- 25年 新潟商工会議所中央会館閉館に伴い事務所を移転。  
木材利用ポイントに参加登録

## 現在の活動状況

- 商品券事業** 加盟店は増加しており、組合員数394。商品券の使えるお店は約800店舗。
- ポイント事業** とよさかシール会がシールからトキメキポイントに切替、稼働101店舗に増加。
- クレジットカード包括加盟事業** 加盟店数64店舗。年間取扱金額3億4千万円(H25.3/31)
- 共同宣伝事業(トキメキ通信)** 隔月発行を継続している。今春16号を発行。毎回12,000部

## 成果

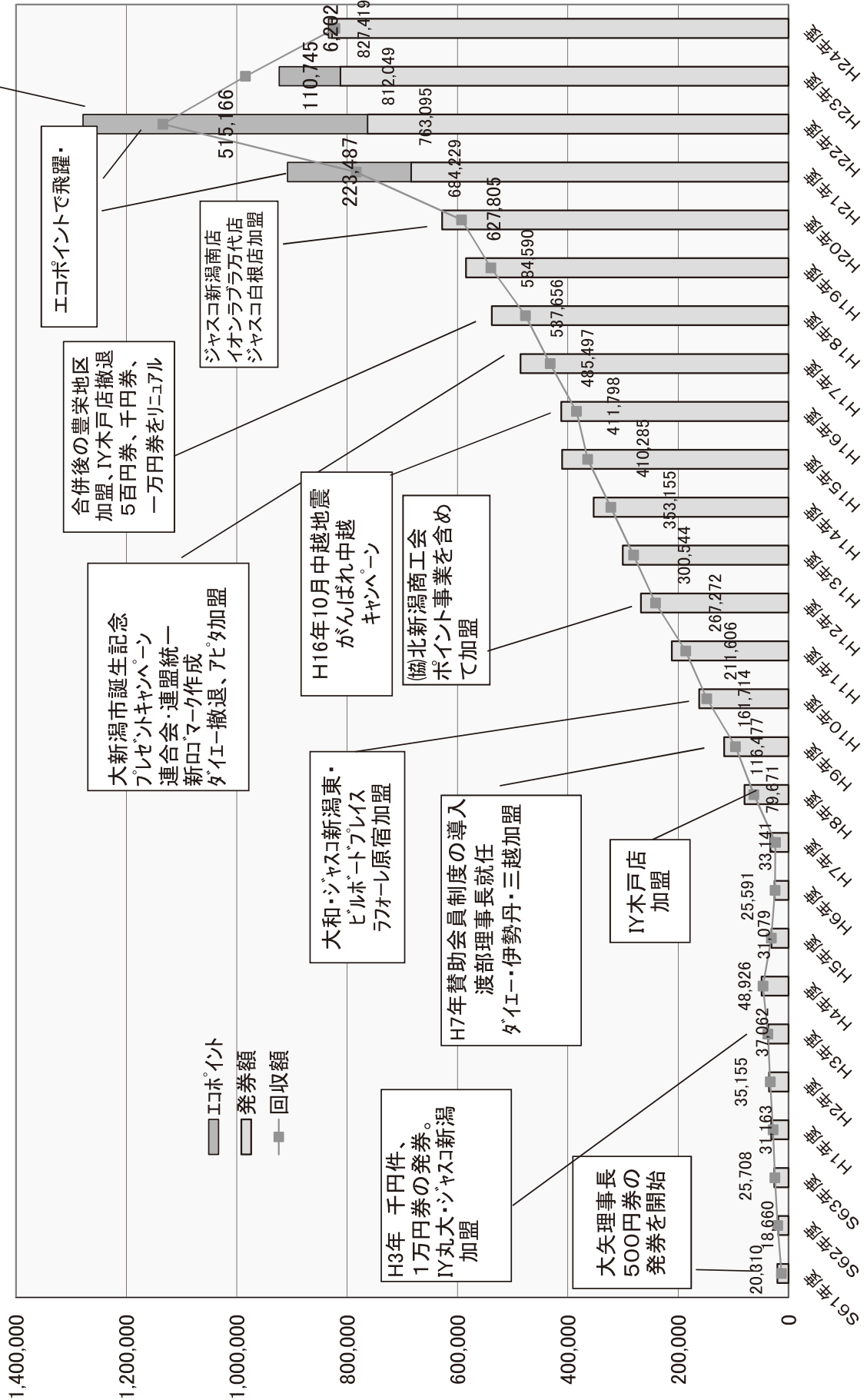
4つの事業の相乗効果で加盟店数が増え続けている。

## 展望・目標

ポイント事業とクレジットカード事業を積極的に拡大したい。

新潟市共通商品券年別発券・回収実績推移

券面リニューアル



合併後の豊栄地区  
加盟、IY木戸店撤退  
500円券、千円券、  
一万円券をリニューアル

大新潟市誕生記念  
フレセントキャンペーン  
連合会・連盟統一  
新ロゴマーク作成  
タイエー撤退、アピタ加盟

H16年10月中越地震  
がんばれ中越  
キャンペーン

(協)北新潟商工会  
ポイント事業を含め  
て加盟

大和・ジャスコ新潟東・  
ビルポートアレイ  
フオーレ原宿加盟

H7年賛助会員制度の導入  
渡部理事長就任  
タイエー・伊勢丹・三越加盟

IY木戸店  
加盟

H3年 千円券、  
1万円券の発券。  
IY丸大・ジャスコ新潟  
加盟

大矢理事長  
500円券の  
発券を開始

## 輪島市商店連盟協同組合

〒928-0001 石川県輪島市河井町20部1番地1 輪島商工会館内  
TEL.0768-22-7515 FAX.0768-22-6555



こやま けいいち  
**小山 桂一** 氏 (輪島市商店連盟協同組合 理事長)

### ■プロフィール

**現住所** 石川県輪島市河井町5部155番地の11

**生年月日** 昭和19年9月16日生まれ

**本籍地** 石川県七尾市府中町174番地

**昭和42年 3月** 立命館大学法学部 卒業

**49年11月** こやま化粧品店 創業

**56年 4月～57年 3月**

輪島商工会議所 青年部会長

**57年10月** 輪島スタンプ会発会とともに専務理事に就任

**58年 4月** 輪島スタンプ会が法人組織となり輪島市商店連盟協同組合に名称  
変更、引続き専務理事に就任

**平成 9年 8月** 輪島・都市ルネッサンスまちづくり協議会設立  
事務局長に就任

**14年 5月** 輪島市商店連盟協同組合 理事長に就任

**15年 6月** 全国共通商品券連絡協議会 副会長に就任

**現在** 輪島市商店連盟協同組合 理事長

こやま化粧品店 代表

全国共通商品券連絡協議会 副会長

能登地区スタンプ会連合会 幹事長

輪島調停協会 会長

輪島・都市ルネッサンスまちづくり協議会 事務局長

### ■ 団体概要

名 称	輪島市商店連盟協同組合(通称 輪島スタンプ会)	
所 在 地	〒928-0001 石川県輪島市河井町20部1番地1 輪島商工会館内 TEL.0768-22-7515 FAX.0768-22-6555	
設 立	昭和57年 9月20日 任意団体 昭和58年 3月30日 協同組合として法人設立	
経 過	昭和57年10月 1日より「輪島スタンプ」発行 昭和58年 4月 1日より「共通商品券」発行	
組 合 員	101名	
スタンプポイント	1(シール・ポイント)	2.1円
	シール 1,000枚綴り	2,100円
	1,000ポイント	2,100円
	5,000ポイント	10,500円

420シール・420ポイントで満点→500円/882円  
(運営費として43.3%)

平成24年4月より ポイント・スタンプに消費税5% (外税)

- 商品券販売所 全店、委託販売店 26店
- 発行商品券 500円券(6種類)、1,000円券(6種類)
- 商品券 販売手数料 2%、換金手数料 4%
- 賦課金 24,000円/年
- 会計処理 日別に、取り扱い全金融機関に支店別にパソコンで組合指定の「同一ソフト」使用してもらって、入金・出金処理をしている。  
また、金融機関が内部処理を兼ねる日報を報告してもらい、金銭については、口座振り替え制をとっています。
- 商品券管理 バーコードによる、単票管理で、1枚毎に何時何処で発行されて何時どの加盟店で回収されたか等がわかる総背番号制をとっています。又、販売・回収実績を事務局のパソコンで「月次、6ヶ月、1年」で管理し、販売・回収のABC分析も実施しています。

**ポイント・スタンプ・商品券の年度別発行額**

年 度	ポイント・スタンプ発行額	商品券発行額
平成15年	60,588,000	92,320,000
平成16年	49,336,000	69,393,000
平成17年	48,040,000	71,253,000
平成18年	45,830,000	76,514,000
平成19年	45,101,000	75,880,000
平成20年	43,178,000	59,746,000
平成21年	41,031,000	55,664,000
平成22年	38,812,000	68,755,000
平成23年	42,390,000	51,215,000
平成24年	34,190,000	42,365,000



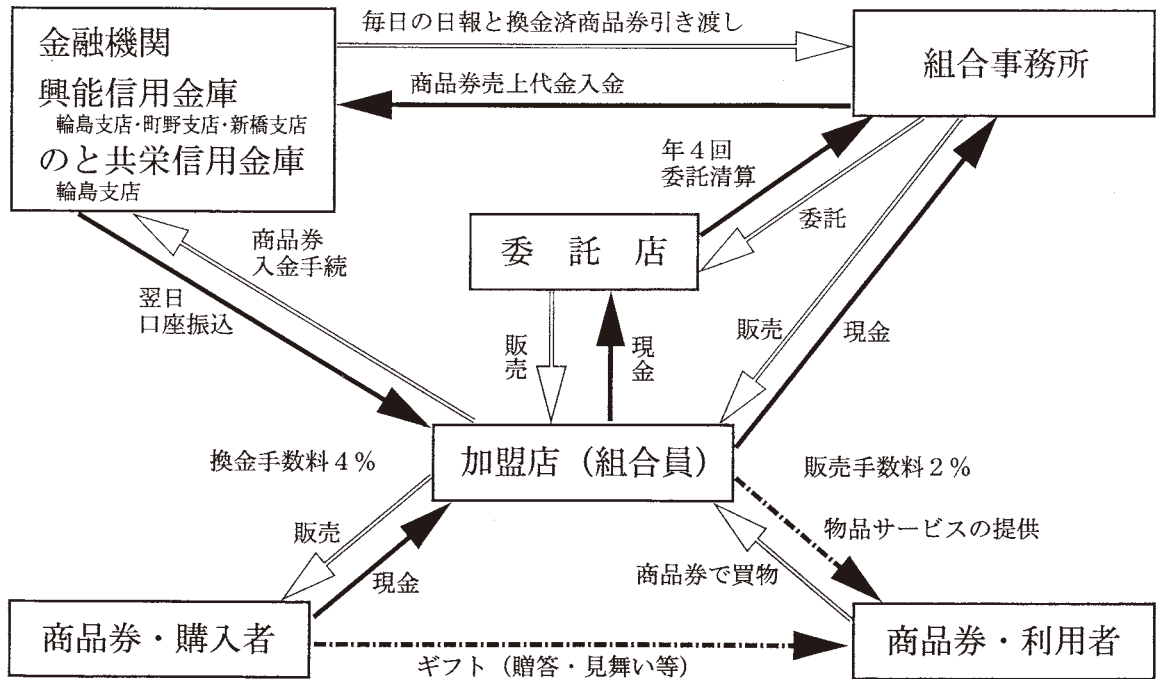
**ポイント・スタンプ事業の経過**

昭和57年10月→	スタンプ	2円×300枚=600円
昭和63年 7月~12月	第1回	スタンプ色替え 交換率 92.99%
平成 3年 7月~11月	第2回	スタンプ色替え 交換率 95.37%
平成 7年 7月~ 8月	第3回	スタンプ色替え 交換率 95.44%
平成 7年 7月→	スタンプ	2円×360枚=720円
平成11年 7月~10月	第4回	スタンプ色替え 交換率 98.09%
平成15年 2月~ 6月	第5回	スタンプ色替え 交換率 94.42%
平成15年 2月→	スタンプ	2円×420枚=840円
平成15年12月→	ポイントカード導入(スタンプと併用) ポイント 1.9円×420枚=798円	
平成19年10月 ~平成20年 3月	第6回	スタンプ色替え 交換率 87.78%
平成22年 6月→	ポイント	2円×420枚=840円
平成24年 4月→	ポイント	2.1円×420枚=882円
平成24年11月 ~平成25年 3月	第7回	スタンプ色替え 交換率 92.57%





商品券フロー



## 協同組合 神辺わかば会

〒720-2123 広島県福山市神辺町川北506-1  
 TEL.084-963-7878 FAX.084-963-7877 Email : jimukyoku@wakaba-kai.com  
 【URL】 <http://www.wakaba-kai.com>



ふじい かずひろ  
**藤井 一浩** 氏 (協同組合神辺わかば会 副理事長 (事務局長))

### ■プロフィール

- 昭和 38年** 広島県神辺町 生れ
- 57年** 東海大学 文学部広報学科 広報メディア課程 卒業  
 株式会社 紅葉堂(家業)入社
- 平成 5年** 株式会社 紅葉堂 代表取締役
- 7年** 父親が神辺わかば会の役員をしていたことから、わかば会の事務に補助的に関わる
- 平成 8年 スタンプリニューアルと同時に事務局長に就任
- 平成 11年 会の法人化にともない専務理事、事務局長に就任
- 平成 14年 協同組合神辺わかば会 副理事長、事務局長に就任
- 10年** 神辺町商工会(及び青年部)入会
- 平成 11年 地域活性化委員長に就任
- 平成 12年 青年部 副部長に就任
- 平成 15年 青年部 部長に就任
- 平成 16年 商工会 理事に就任
- 《現在》 株式会社 紅葉堂 代表取締役  
 協同組合神辺わかば会 副理事長(兼 事務局長)  
 全国共通商品券連絡協議会 理事  
 神辺町商工会 理事(商業部会委員)  
 神辺町観光協会 理事(事務局長)  
 市民吹奏楽団 金光ウインドアンサンブル 団長

### ■ わかば会の沿革

- 昭和41年 地元商業者が集まりスタンプ事業を行う任意組合として結成。
- 40年代 経済成長と共にスタンプ発行を伸ばし「顧客サービス(非加盟店との差別化)としてのスタンプ事業」として発展。
- 50年代 スタンプ発行額2,000万円を突破。また、お客様ニーズの変化に合わせイベントの内容も多様化。(景品交換→招待イベント等)
- 昭和～平成 商業環境の変化(第一次大型店ラッシュ)と経済の停滞、ライフスタイルの変化、また後継者問題など厳しさが増す。スタンプの発行額は減少傾向へ。
- 平成 8年1月 烏山駅前通り商店街振興組合を視察、桑島氏を講師に招聘
- 4月 「地域活性化事業としてのスタンプ事業」をコンセプトにスタンプ事業を全面的にリニューアル(烏山方式導入)
- 11年6月 新事業(地域共通商品券)への取組みと、事業の発展、基盤強化のために組織変更(協同組合神辺わかば会設立)



- 7月 地域共通商品券事業の開始を、中国財務局へ登録申請。
- 9月 わかば会共通商品券発行
- 13年 加盟店数84店、スタンプ発行 4,050万円  
共通商品券発行 11,600万円(行政買取・プレミアム 計9,500万含む)
- 平成17年～ 第二次大型店ラッシュ(5万平米超2店・1万平米超4店 他)  
再び、スタンプの発行額は減少傾向へ。商品券発行額は増加傾向維持。
- 平成18年～ 福山市に合併される(福山市42万人・神辺町4万人)
- 【現在】 旧神辺町街区を中心に、組合加盟店58店(うち金融機関2行)、商品券券取扱登録店130店。  
スタンプ発行額 約1,000万円、商品券発行額約3,000万円。スタンプ事業の改革を推し進めると同時に好調の商品券事業を足掛かりに商品券事業の更なる強化と周辺域への浸透を図り加盟推進と事業の変革・革新を推進中。

## ■ わかば会の事業分野

### ○ 共通商品券発行に関する事業

「地域の経済循環」と「来店機会の獲得のため」スタンプ事業よりもさらに広い範囲での地域商業者同士の連携と、行政・商工会・地元企業等との協力体制の中で積極的に推進しています。また、スタンプ事業との相乗効果を図りより「効率的な運営」「商品券効果の最大化」に努めています。

### ○ スタンプの発行に関する事業

加盟店でのお買物毎に差し上げる「NEWわかばスタンプ」を家庭・職場等で集めて頂き、集めて頂いたスタンプで加盟店での再度のお買い物にご利用頂いたり、旅行などのイベントに参加して頂くほか、コンサートチケットや映画券、高速バス券などに常時交換をしています。特に地域貢献の主旨から神辺文化会館・福山リーデンローズの行事はその全てを交換の対象にするほか、スタンプで他団体の行事に参加出来るなど、他の地域団体との協力体制も強化しています。また、提携金融機関へ貯金も可能にしています。特に近年は「加盟店回収(再度のお買い物に利用頂く)」に力点をおいたイベント構成にシフトし、加盟店での回収割合を15%以上増加させました。

### ○ 広報・販売促進に関する事業

毎月1回のチラシ折込・店頭配布(毎月1日)で、わかば会イベントの広報を行うほか各加盟店の店頭用広告用品の支給などを行っています。また、チラシの裏面は加盟店に解放し、各店の販促に利用して頂いています。

### ○ 情報・教育に関する事業

会事業に関する情報や個店の商業環境に関する情報の提供などのほか、接客マナーの研修会や地域商業活性化のための研修会を随時開催しています。

毎年、全国各地の先進地やユニークな取り組みをされている方をお招きして講演をしていただいています。

### ○ 福利厚生・親睦に関する事業

わかば会は、その基本コンセプトの中で「地域の商業者は同業であれ、他業であれ運命共同体である」としています。加盟店相互が仲良く、胸襟を開き切磋琢磨することが大切だと考え、親睦に関する事業も積極的に推進しています。

## 分科会テーマ「地域通貨としての機能と活用」について

### ■そもそも商品券とは？■

- ① 商品券は「商品」である。特に「ギフト商品」である。
- \* 商品として価値があること。魅力的であること
    - 適切な額面金額の設定と券面のデザイン
    - ギフト需要にも耐えうるパッケージのデザイン
    - 買い求め易いこと、使い易いこと。
  - \* ブランドイメージやロイヤリティ（信頼性）が高いこと
    - 行政への働きかけ（敬老祝い金・公共機関での利用）
    - 加盟店の理解（取扱い方法の徹底「だれでもOK」は認めない）
    - 財務局へ第三者発行型前払式証票として発行登録（消費者保護）
  - \* 事業として採算の見込みがあること
    - 販売手数料、回収手数料、賦課金の設定
    - プレミアム販売は原則行わない（やるなら別枠で...）

神辺わかば会の発行する商品券  
（デザインのお手本は輪島市の共通商品券）



町内史跡の写真を使用（通常券）

② 商品券マーケットはどうなっているか？

- \* 前払式支払い手段は 19兆円産業
  - 発行者：1,790事業者（うち、第三者型：1,084事業者）（財務局登録数）
  - 発行金額：19兆1.615億円  
（平成23年度 金融庁資料 資金決済業協会HPより）
- \* 百貨店の売り上げ10万円のうち3,483円は、商品券による売上
  - 百貨店の全体の売上金額：6兆1,559億円
  - 百貨店の商品券販売金額： 2,072億円（3.4%）  
〔婦人服…化粧品>宝飾>家庭用品>商品券>飲食>子供服>その他衣料…家具>サービス〕  
（平成24年度 全国百貨店協会調べ 同HPより）

③ 市場性（お客様のニーズ）はあるか？

- \* 貰いたいギフト調査ではここ10年以上第一位はダントツ「商品券」

### ■共通商品券発行の目的と効果■

- ① 地域商業の振興・地域内需拡大
- 共通商品券の発行は「地域でしか使えない新しい通貨を獲得すること」
  - 商品券の購買効果「今日はちょっと贅沢」「我慢していたあの商品」
  - 商品券は取りに行かないと、なかなかやって来ない
- ② 商品券市場への新規参入
- 貰いたいギフト調査ではここ数年第一位は「商品券」
  - 百貨店、大型店と同じ土俵に上がる事の意味
- ③ お客様の来店機会獲得
- 商品券は街の案内係、商品券のもつ「来店機会獲得」という特性



観光協会とコラボした地域PR用

### ■商品券はコミュニケーションツール■

- ① 当然ですが、商品券は売ってくれる人がいるから、回収できるのです。  
「地域（参加店）のコミュニケーションと感謝の気持ちがなければ...」
- ② お店とお客様の信頼関係を具現化するツールです。

「共通商品券事業＝お金でお金を作る事業、をわざわざ行うワケは...」

③ 町内の消費動向を明らかにする指標となります。

◆(番外編1)事業運営について◆

① 走りながら考えろ！共同事業の推進はスピードを旨とすべし！

「実施日を決め逆算で準備を進める`そのうち、って、一体いつのこと...」

② やる前からあれこれ言い訳するな！

「町が違う、人口が違う、状況が違う、ワケが違う...キリがないでしょう」

③ 総論がまとまれば、各論は必要なし！各論の大部分はマイナス思考。

「最悪の想定って、本当はやりたくない(責任を取りたくない)だけでしょ...」

◆(番外編2)広報について◆

① お客様は、私達が思っている以上に私達の事業のことを知らない

「地域のため...と言いつつ、地域の人が知らないって、ど~ゆ~ことよ?」

② ITは若者のもの、ホンマかそれ?

「団塊世代はIT世代、当会HPの誤植を初日に指摘した人は60代の女性」

神辺わかば会の発行するチラシ類  
(イベント等の案内の他、商品券・スタンプ自体の利用方法は、繰り返しPRする)



## コーディネーター

## はちのへ共通商品券協同組合

〒031-0076 青森県八戸市大字堀端町2番地3 八戸商工会館6階

TEL.0178-71-1991

【URL】 <http://www.syohinken.jp/>

今こそ共通商品券の出番、環境変化を乗り越え地域の期待に応えよう！

こわたり のぶよし

小渡 章好 氏 (はちのへ共通商品券協同組合理事)



## ■プロフィール

全国共通商品券連絡協議会専務理事、はちのへ共通商品券(協)理事。

在学中より同人型シンクタンク「マイル研究所」にて、様々な都市・地域開発等の調査・研究事業に従事。後、代表取締役。クライアントは三井不動産、松下グループ、新日鉄等。

1983年に八戸に帰郷後、まちづくりや商店街振興など幅広い活動を展開。はちのへ共通商品券事業の調査・企画・立ち上げを行う。

「顧客本位のものとする」「つり銭を出す」「大型店を参加させる」「大型店の負担を多くする」「発行・管理は地域資源との協働で最小限のコストを実現する」など、当時としては画期的な地域商品券を実現し、十数年、発行高日本一を維持した。

中心市街地の活性化は、商店街関係者に加えて幅広いステークホルダーの参画が必要との立場に立ち、現在、八戸大学・八戸短期大学総合研究所副所長・教授として「企業イノベーション講座」などを担当している

当初から会長を務め、現在も関わる「ファッション甲子園」は2011年、衛星ハヤブサチームなどとともに「日本クリエイション大賞・特別賞」受賞。優勝チームを2000年からパりに派遣している。